

## 試聴会・訪問記掲載

### テクニクスリスニングルーム試聴記(2017.1.18)

オーディオセッション in Osaka 2016 ではテクニクスのブースは満員で入れなかった  
ので一度じっくり聴いてみたいと思っていましたので、オーディオ仲間の M 氏、O 氏  
とともにグランフロント大阪にあるテクニクスリスニングルームに行ってきました。  
テクニクスリスニングルームについては、開設直後に訪問し、その様子は、[テクニクス  
ハイレゾ対応製品試聴会\(2014.10.29\)](#)で報告しています。その後、製品ラインアップも  
充実し、アナログプレイヤーも復活したことから、アナログファンの M 氏、O 氏を誘  
って再度出かけることにしました。

テクニクスリスニングルームの試聴システムは下記のとおりです。

#### <試聴モデル>

##### 1. リファレンスクラス R1 Series

- ・ステレオパワーアンプ「SE-R1」
- ・ネットワークオーディオコントロールプレーヤー「SU-R1」
- ・スピーカーシステム「SB-R1」

##### 2. グランドクラス

- ・ダイレクトドライブターンテーブルシステム「SL-1200G」
- ・ミュージックサーバー「ST-G30」

##### 3. プレミアムクラス C700 Series

- ・ステレオインテグレートッドアンプ「SU-C700」
- ・ネットワークオーディオプレーヤー「ST-C700」
- ・スピーカーシステム「SB-C700」
- ・コンパクトディスクプレーヤー「SL-C700」

#### <試聴音源>

1. 「Technics」が選曲する「ハイレゾ音源」  
ヴォーカル、ジャズ、クラシックなど
2. 持ちこみ CD、LP と EP





### <試聴経過>

まずは、アナログフアンの M 氏、O 氏持参の銘盤を聴いていくことにしました。カートリッジは DL103、フォノイコは Ortofon の EQA555 です。

どの盤を聴いても、中域にエネルギーが集まる傾向の従来の DL103 の印象とはことなり、ワイドレンジでニュートラルな印象でした。システムトータルの性能もあるでしょうが、ターンテーブルの安定した回転と、共振が抑制されたアームの性能によるのではないかとということで、M 氏、O 氏とも意見が一致しました。

EQA555 からのアナログ信号はネットワークオーディオコントロールプレーヤー

「SU-R1」でマルチビットに AD 変換され、LAN ケーブル経由でステレオパワーアンプ「SE-R1」の送られているのですが、それほどデジタル臭さは感じられませんでした。しかし、始まる前に石川さゆりがかかっていたが、フレッシュでバランスの良い M 氏、O 氏持参の銘盤の音とは異なり、変に強調感があり、バランスを欠いた音でしたので、これはシステムよりは、オーディオに媚びたリマスタリングのせいではないかと思えます。

アナログ再生に関しては、M 氏、O 氏とも DL103 の鳴りっぷりに感嘆しており、

「SL-1200G」の性能の良さに由来するものというご感想でした。

最後にヒラリー・ハーンの 192KHz24bit のハイレゾ音源をミュージックサーバー

「ST-G30」から聴かせてもらいましたが、アナログが良かっただけに平凡な印象でした。

敢えて、難を言えば、このシステムですべての信号はネットワークオーディオコントロールプレーヤー「SU-R1」からステレオパワーアンプ「SE-R1」に LAN ケーブルで送られますので、LAN ケーブルの音質が全体の音質に大きな影響を与えるということです。AIM 電子の LAN ケーブルが使用されていましたが、やや音が固めで、AIM 電子を含む、いくつかの LAN ケーブルの使用経験から、もう少し音楽性の高い、例えば、インフラノイズの LAN リベラメンテなどを使用すると、随分と印象が変わってくると思います。

上記ヒラリー・ハーンの演奏は CD も持っていますし、ハイレゾ音源は別の試聴室で

A&Kの一体型ネットワークプレイヤー（LANケーブルが不要）で聴いており、もっと艶やかな音がすることを経験していますので、LANケーブルを替えればハイレゾの真価を発揮するものと推測した次第です。